手旗信号とモールス信号　　ＪＡ６ＤＭ　於 保 武 志

大東亜戦争中（第二次世界大戦）に国民学校生徒だった私達は、軍事教育として手旗信号や和文モールス信号をゲンコツやビンタを受けながら教えられました。

手旗信号は、赤と白の旗を左右の手に持って通信をします。握り手の柄が長く出ているのが陸軍型で、柄が無いのが海軍型の２種類が有りました。当時、手旗はいつも各人がカバンに入れて持っていなければなりませんでした。

モールス信号は、和文モールス符号を**イトー・ロジョーホコー**といった合調法で教えられたので、１度符号を覚えてしまえば送信はスピードを上げても楽でした。しかし、受信は**トツー**と聞いて、**イトー**と言い「**イ**」と変換するといった「手数な方法」なので、スピードが遅いときは楽だが、スピードが早くなれば受信が追いつかない欠点が有りました。　私が第１級アマチュア無線技士の国家試験を受けたときは、実技の電信は欧文が１分間に６０字のスピードで３分間の送信及び受信、和文は１分間に５０字のスピードで３分間の送信及び受信でした。

欧文は**・ー：Ａ**と音で覚えたので問題は無かったものの、和文は戦争中に合調法で覚えていたのが禍して、受信スピードが上がらず大変困りましたが、欧文と同様に**・ー**と音を聞き「**イ**」と直接書く受信法に切り変えて練習し直し無事合格することができました。　欧文の符号は、**２６文字**でしかも通信が早く出来るように使用頻度が多い文字に**Ｅ:・,Ｉ：・・,Ｔ：ー** 等と短い符号を割り当ててあります。欧文に比べ和文の、いろはは**４８文字**と字数が多く、しかも文字の使用頻度は考慮されておらず、ア：ーー・ーー，エ：ー・ーーーといった様に文字の符号が長いので、モールス符号のスピードは欧文６０字／分に比べ、和文５０字／分が早い状態です。

数年前、戦争中に習った和文モールス合調法の事を思いだし、小学校の同窓会やアマチュア無線の会合の度に周りの人達に聞いてみましたが、合調語の文は皆さん初めのほうは覚えているものの終わりになるにしたがって忘れていました。しかし、ついにＪＡ６ＥＫ松本さんに最後まで思い出してもらい参考の為表にしました。　最近幾つかの電信の本やアマチュア無線関係の本で、電信に関した記事を読んでみましたが、掲載されている和文モールス合調語は、私が見たのは全部の本が私達が習った文のままでは無く、「孟子と孔子」を「毛布と毛布」や「モールスコード」とか、「乃木東郷」を「糊少々」や「聞いて報告」を「京都大阪」、「回向冥福」を「エアーガールズ」等と書き替えられていました。　参考に、英語文字使用頻度を１０万字について調査した、ニューヨーク・タイムズ１０万字統計と欧文モールス符号表もあげました。

英語文字使用度数（ニューヨーク・タイムズ１０万字統計）

順位	文字	モールス符号	度数	順位	文字	モールス符号	度数
1	E	・	12,254	14	P	・ーー・	2,886
2	T	ー	9,412	15	U	・・ー	2,578
3	A	・ー	8,191	16	F	・・ー・	2,258
4	O	ーーー	7,259	17	G	ーー・	1,708
5	I	・・	7,101	18	W	・ーー	1,593
6	N	ー・	7,061	19	Y	ー・ーー	1,582
7	R	・ー・	6,854	20	B	ー・・・	1,471
8	S	・・・	6,356	21	V	・・・ー	1,093
9	H	・・・・	4,567	22	K	ー・ー	412
10	D	ー・・	3,907	23	X	ー・・ー	211
11	C	ー・ー・	3,833	24	J	・ーーー	138
12	L	・ー・・	3,774	25	Q	ーー・ー	89
13	M	ーー	3,337	26	Z	ーー・・	75

（ CQ ham radio December 1988 P.217 より）

和文合調法　（戦争中に軍事教育として教えられたもの）

文字	和文モールス符号	合調語	文字	和文モールス符号	合調語
イ	・－	伊東	ノ	・・－－	乃木東郷
ロ	・－・－	路上歩行	オ	・－・・・	思う心
ハ	－・・・	ハーモニカ	ク	・・・－	苦しそう
ニ	－・－・	入費増加	ヤ	・－－	野球場
ホ	－・・	報告	マ	－・・－	まぁ任そう
ヘ	・	屁	ケ	－・－－	経過良好
ト	・・－・・	特等席	フ	－－・・	封筒貼る
チ	・・－・	地下投棄	コ	－－－－	高等工業
リ	－－・	流行地	エ	－・－－－	英語ＡＢＣ
ヌ	・・・・	塗物	テ	・－・－－	手数な方法
ル	－・－－・	ルール修正す	ア	－－・－－	あぁ言うとこぅ言う
ヲ	・－－－	和尚焼香	サ	－・－・－	さぁ行こう行こう
ワ	－・－	わーと言う	キ	－・－・・	聞いて報告
カ	・－・・	下等席	ユ	－・・－－	夕刻郵送
ヨ	－－	洋行	メ	－・・・－	名月だろう
タ	－・	タール	ミ	・・－・－	見せよう見よう
レ	－－－	礼装用	シ	－－・－・	周到な注意
ソ	－－－・	そうとう高価	ヱ	・－－・・	回向冥福
ツ	・－－・	都合どうか	ヒ	－－・・－	兵糧欠乏
ネ	－－・－	ねぇ、もぅだろぅ	モ	－・・－・	孟子と孔子
ナ	・－・	習うた	セ	・－－－・	世評良好だ
ラ	・・・	ラムネ	ス	－－－・－	数十丈下降
ム	－	むー	ン	・－・－・	旨ぇうめぇなぁ
ウ	・・－	疑ごう	濁点	・・	濁（だく）
ヰ	・－・・－	威光発揚	半濁点	・・－－・	パス通用期

通信方式も時代が変わり、人工衛星を利用した通信技術の進歩で、電波伝搬が不安定で熟練した通信士が必要な短波帯を利用した通信から、人工衛星経由の通信に移ってきました。　その結果、世界各地を航行中の船舶との間で、電信による電報の送受信を担当していた長崎県諫早市にあったＮＴＴ長崎無線サービスセンター(ＪＯＳ)も、平成11年(1999)1月31日で閉鎖され、２月１日には電信による気象庁の気象通報(ＪＭＣ)も廃止されました。

この様に、業務用の通信からモールス符号を使用した電信(CW)が無くなりつつある中で、混信でも一番有利で、しかも、使用する電波の幅が一番狭い通信の原点でもあるCWは、アナチュア無線の世界では最後まで残るものと思われます。